

タキイ育成  
ニガウリ

揃いのよい短太型ニガウリ

# 島さんご

タキイ研究農場

同高

輝久



ニガウリは、近年の健康ブームで急速に全国区へと広がりました。夏ばて防止のほか、最近では機能性分析の報告も多く見られ、ビタミンCや食物繊維を豊富に含んでいる野菜として紹介されています。今回新発表の「島さんご」は、枝の発生がよく草勢がやや強めで栽培しやすく、果実はポリウームのある短太型でよく揃います。苦味のある料理で清涼感を味わい、つるを自由に誘引したり柵づくりを楽しんで、夏の季節感を演出してはいかがでしょうか。

## 品種特性

### 1 果形は短太型でよく揃う

果実のサイズは20〜25cmで、果形はよく整い秀品

率が高いのが特長です。果皮色は濃緑で商品性が高く、果肉色は淡緑色でややかためで、しまった食感が味わえます。

### 2 草勢はやや強めで長期多収どりが可能

「島さんご」の葉はニガウリの中でも大きめで、つるはしっかりとっており、やや強めの草勢なので比較的環境適応性が広く、安心して栽培することができます。雌花の発生はやや遅めですが、茎葉が茂ってくれば安定して着生し着果します。収穫始めはあまり早くありませんが、着果性が高く、草勢に馬力がある分、収量が多くなります。つるもち性に優れるので、長期にわたり収穫が楽しめます。

## 栽培のポイント

### 圃場の準備

「島さんご」は土壌適応性が広い一方で、ニガウリの根は細く浅く張るので土壌水分の変化には注意します。圃場準備の注意として、栽培地は排水のよい土地を選び、必要に応じて畝を高く上げておくとういでしょう。土壌水分を安定させるには、マルチを張っておくことが大切です。また乾燥に対応するため、マルチに灌水チューブを入れておくことをおすすめします。

### 施肥

施肥は栽培条件により異なりますが、「島さんご」は栽培期間が長いので、緩効性肥料をほかのウリ科作物より多めに施用します。目安として、10a

当たり成分量でチッソ15kg、リン酸20kg、カリ15kgくらいを基準に施し、作型や土質により調節します。

### つるの仕立て方

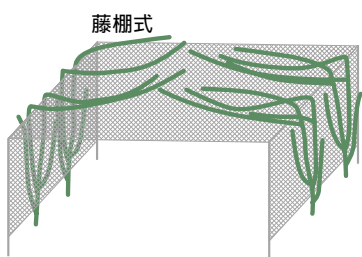
一般的には分枝性が強く、葉が多く重なり合うので立体栽培が適しています。誘引方法は、ネットを張り垣根にする方法や藤柵式にするなど、さまざまにアレンジできるのも楽しみの一つ

### 「島さんご」の適作型

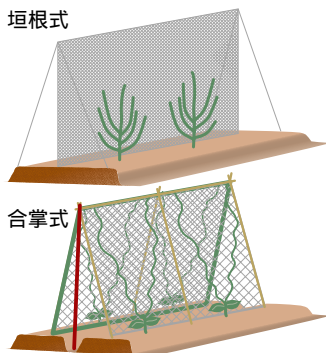
播種期の決定は、圃場に定植する時期の最低気温が15以上確保できる時期から逆算します。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
冷涼地											
中間地											
暖地											

図 誘引方法



垣根式



合掌式

です(図)。仕立て方は放任栽培も可能ですが、揃ったつるを出させるには親つるを10枚くらいで摘芯し、子つるを5〜8本伸ばして誘引します。その後出てくる枝は原則として放任とし、ひどく込み合う部分のみ摘芯します。

**交配** ニガウリは受粉しないと着果しないので、自然のミツバチ訪花または手交配が必要です。手交配なら朝の早いうちにたつぷり柱頭に花粉をつけます。

**収穫** 収穫適期の目安は、果皮色が緑色になり果実の大きさが20〜25cmくらいの肥大が止まったころです。適期を過ぎると果実が黄色く変色し、果実が割れて赤い種子がはじけて商品価値がなくなるので、とり遅れないように注意します。